熊日1957.02.14

水俣の奇病
原因はマンガン？

栄養障害も禍い
街中がノイローゼぎみ

水俣の奇病は全国医学界の注目のうちに大きな社会問題となってきた。原因不明のまゝ、ここ三、四年のうちに五十四人が発病、手足がきかなくなったり、目や耳に障害が起こったりして十七人が死んだほか残りの患者も終生が心配されているという恐ろしい病気である。熊大医学部、県、市、地元医師会からなる対策委員会でいま全力をあげて原因究明に当っているが、最近になって重金属による中毒かほゞ確実と見られるにいたり、水俣湾内でとれる魚介類に赤信号が出された。このため沿岸漁民の大多数が生活の糧を失い中毒か餓死かというところまで追いつめられた。また付近の湯ノ児温泉もはったり客足が途絶えるなど社会問題に発展、原因究明の目が待たれている。

同対策委の調べでは二十七年十二月に最初の患者が発生しているが、症状が日本脳炎または小児マヒに似ているところから簡単に片付けられ、奇病（原因不明の中枢神経系疾患）として取上げられたのは昨年春いらいで、現在までに二十七、八年各一人、二十九年八人、三十年十人、三十一年三十四人と次第に増え、合計五十四人に達して十七人が死亡している。発生地は水俣湾内の漁村で過半数が月浦部落に集中しているほか湯堂、出月、茂道、百間、梅戸の各部落にわたっているが、一家族に二人以上の患者がでたのが九家族あり家族集積性が強いのが特徴。

症状は手足がしびれ歩行不自由となるほか視野力の減退、言語障害など典型的な中毒症状で、大多数が肺炎を併発して死亡しているが、治療法もいまのところビタミン療法以外に決め手がない。不思議なのは患者宅のネコ、ネズミ、犬などが同じ症状を呈して全部死亡していることだ。

また湾内の魚介類も最近めっきり減りカキ類が岩からボロボロ落ちるほか外海でとって帰った漁船のイケスの魚が水俣湾に入るとみな死ぬ（中村水俣漁協参事）という。

原因についてはこれまで井戸水説、細菌説、寄生虫説、アレルギー説、中毒説などが次々に出たが、解剖の結果、重金属による中毒説が確実化し、症状がマンガン中毒に似ているところからマンガンが主因で、これに漁村特有の栄養障害などのプラス・アルファが加わって起ったものではないかという見方が有力になっている。

奇病発生の月浦部落全景

奇病患者（三歳の女児）手と足がしびれて動けなくなった

いっぽう現地部落でも昨年春、対策委員会を組織し関係当局への陳情を続けているが、魚介類が壊体であることが明らかとなったため市民全体が奇病ノイローゼに陥って同湾内でとれる魚は一切売れず、ひどいところでは同部落の野菜類も買わない有様。委員の一人同市湯堂漁業岩坂敬喜さんは「きょう

魚介類の媒介は確実
売れぬ魚に漁民は悲鳴

このため熊大医学部では新日窒水俣工場の排水に疑いをもち、海水や海底の泥を分析するいっぽう、同湾内からとれた魚介類の臓物や骨から有毒物質を抽出、これをネコやネズミに与えて動物実験を行っているが動物がマンガン中毒にかかるには長期間を要するといわれ、まだ最終的な結論は出ていない。しかし患者がいずれも魚介類を大量に摂取し、冬季と梅雨期には患者が出ていない点から、湾内の魚介類が媒体であるのはほぼ確実だとみて魚介類を食べないように指示し、食べない結果、今後患者が出なければそれが一つの安めを手になるといっている。

しかしてこの奇病はすでに奇病ではなく中毒性脳神経症とでも呼ぶべきだと熊大ではいっている。

このように調査は工場排水にしぼられているが、これについて工場側では「二十八年ごろまではマンガンを使っていたが、現在は全く使っていない。もしマンガンとすれば廿八年以前に工場内で中毒患者が出るはずだ」と真ッ向から否定している。しかし熊大では海底の泥から相当量のマンガンを検出、とくに厚生省では同湾内に五㎡平方当り八百㌘のマンガンがあるものと推定しているといわれ、これが親潮や水俣港しゅんせつなどの関係で月浦方面へ流れたものとみる向きもある。

いずれにしろ来月には新鋭の海水分析機が熊大に到着することになっているので、こゝ数カ月中にはなんらかの結論がでるものとみられるが、もしマンガンであることが確定すれば当然、工場側との間に補償問題が起るものと予想されていまは魚をとることも自体がこわい。自分たちが市中に売りに出しても買手がないので湾内での操業は一切やめている。ほとんどの人が日雇いにでているが、陸にあがったカッパと同じで生活は苦しくなる一方だ。一日も早く原因をはっきりして欲しいと訴えている。

また市内中心部でも奇病発生いらい魚の需要がガタ落ちし、水俣漁業組合というだけで外海でとれた魚も取引を断わられるなど笑えぬ悲劇を生んでいる。とばっちりをうけたのは付近の湯ノ児温泉で、近ごろは観光客も激減、閑古鳥がなくようなさびしさで、なんとかして欲しいと訴えており、これら気の毒な漁民たちの生活問題を中心に地元では救済の手なしのべられるのを待ちわびている。